



令和7年12月発行

# 飛翔会だより

令和7年度号

文化学園大学保育専門学校

## 目次

- |    |              |
|----|--------------|
| 2  | 会長あいさつ       |
| 3  | 学校長あいさつ      |
| 4  | 幹事会          |
| 4  | 飛翔会主催 講演会の開催 |
| 7  | 事務室訪問        |
| 9  | 学校・学生の近況報告   |
| 13 | 事務局よりお知らせ    |

文化学園大学保育専門学校  
飛翔会事務局

E-mail : [hishokai@gakuen-nagano.ac.jp](mailto:hishokai@gakuen-nagano.ac.jp)

TEL026-227-2090

FAX026-224-2200

## ごあいさつ

## ～この頃思うこと～

飛翔会 会長

中 島 智 子



今年の夏は例年になく猛暑に見舞われ、人間だけでなくすべての生き物が涼を求めているように感じられました。動物はもちろん、いつもは元気な草でさえも、その水分が奪われないように必死になっているかのように見えました。爽やかさをイメージしていた信州はいずこへ、という感じです。

日々の生活はもちろん、仕事や学業にも異常な暑さは弊害をもたらします。社会でご活躍の同窓生の皆様方もきっとご苦労が多いだろうなあと思いを馳せています。

そんな厳しい暑さの日に、こんなことがありました。ある時、自宅の庭先でカマキリの子どもを見つけました。体の形は成虫と同じ様ですが、まだまだ細く小さく可愛いと形容するのがぴったりの姿でした。そっ

と触れてみたくなり手を伸ばしたのですが、あっという間に逃げられてしまいました。小さな体を懸命に



動かして。「そりゃそうだ！私に捕まるようでは、この厳しい自然界で生きていけないよね」と思いながら、つい笑いがこみあげてきました。そしてその後ろ姿(?)に心の中で「がんばれー」と応援している自分がいました。こんな小さな昆虫との遭遇でしたが、この時間は、暑さも忘れ、穏やかな気持ちになっていました。そこで、やっと気が付きました。私はすごく緊張していたのだと。穏やかな気持ちを忘れていたなど。

対人援助職である私たちはもちろん、社会では人と関わるのが基本となります。そして、人と接するには、自分自身が幸せな気持ちでいなければ、相手にも気持ちよく接することができないと思っています（もちろん自分だけが幸せでいればいい、というわけではないのですが）。これは、いつも折に触れ学生たちに伝えていたことでありました。それを忘れかけていましたが、小さな生き物のおかげで改めて自分の心の持ちように関心をもつことができました。

このような日常のささいな出来事や思いを、同窓生の皆様と共有できる場が飛翔会です。時には年代を超え、肩の力を抜き他愛のない話を共有しませんか。私にもなるべく多くの会員の皆様方にお会いしたいと考えています。毎年行われる12月の総会は、どなたでもご参加いただけます。時には母校へ足を向け母校の風を感じてみてはいかがでしょうか。

## ごあいさつ

## すみれマインド

学校長  
守 秀 子

飛翔会会員の皆さま、いつも本校のために温かいご支援をいただき、ありがとうございます。

本校では今年度より、専任講師として長谷理美（旧姓：牧村）先生をお迎えしました。本校卒業生でもある長谷先生には「実習指導」「遊びと造形」「保育原理Ⅱ」などの科目をご担当いただいています。すでに学生や職員からの信頼も厚い人気の先生になっています。

次に学生の様子についてご報告いたします。入学当初からしっかりした印象だった2年生は、さらに大きな成長を見せてくれています。就職も着々と希望する園に採用が決まっていますが、今年は数名が長野市をはじめとする周辺市町村の公務員採用試験に見事合格しました。努力してきた学生たちが成果を出し、評価される姿を見るのは、私たち教職員にとって何より嬉しいことです。

1年生は、素晴らしい先輩たちに恵まれ、入学直後から学校生活にスムーズに適応し、明るくのびのびと学んでいます。4名の男子新生もすっかり学校に溶け込み、様々な場面で活躍しています。

2年生は、保育を学ぶ学生として模範となる行動を数多く見せてくれるだけでなく、1年生に対しても思いやりを持って接し、支え、導いてくれています。1年生たちはそんな先輩の姿に憧れと尊敬の念を抱き、多くを学び取ろうとしています。このような学生たちの姿を見ていると、本校が大切にしている「気働き・思いやり・あいさつの精神」がしっか

りと受け継がれていることが実感されます。そして、それこそが本校の魅力を支えているのだと改めて感じています。私はこの精神を「すみれマインド」と呼んでいます。

私自身のことを少しお話しさせていただきます。今から50年前、筑波大学に入学した当時のことが思い出されます。当時の筑波大学は、国が新構想のもとに創設した大学で、新しいことに挑戦したいというフロンティア精神に満ちた学生たちが集まっていました。また、研究学園都市の中核として、多くの研究機関が集まる環境にあり、学問や研究への強い探究心を持つ個性豊かな学生が多く、いわば「変人」の集まりとも言える場所でした。

先日、入学50年を記念する同窓会が筑波で開催され、多くの旧友と再会することができました。他の年代の卒業生や現役の筑波大生とも交流する中で、「筑波大生マインド」が今なおしっかりと受け継がれていることを確認でき、とても感慨深い時間となりました。

久しぶりに母校や「筑波大生マインド」に触れ、懐かしさを感じた私ですが、同時に本校に息づく「すみれマインド」への愛着も改めて実感しました。価値観が多様化し、変化の激しい現代にあっても、保育者にとって大切な基本マインドは変わることがないと信じています。

飛翔会の皆さまが長年にわたり受け継いできてくださった、この美しく温かな「すみれマインド」を、これからも職員・学生一同で大切に育み、未来へとつないでまいります。

## 令和7年度幹事会 7月19日(土)

令和7年度幹事会を行いました。  
内容については下記のとおりです。

- ① 令和7年度事業内容の確認
- ② 幹事の仕事内容・任期について
- ③ 令和7年度予算の確認
- ④ 飛翔会だよりの発行について



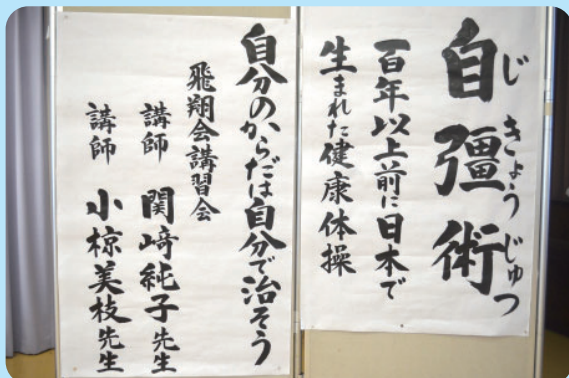
## 飛翔会主催 講習会の開催 7月19日(土)

じぎょうじゅつ  
～自彊術～ 100年以上前に日本で生まれた健康体操  
タイトル「自分のからだは自分で治そう！」

講師：関崎 純子先生  
小椋 美枝先生



去る7月19日(土)第1回幹事会に合わせ、講習会を行いました。今回行った内容は、「自彊術」という健康体操です。初めて聞く体操の名前に参加された皆さんは、どんな体操なのかと興味津々。最初はおっかなびっくり状態。しかし、講師の関崎先生と小椋先生の巧みな話術と姉妹ならではの絶妙な掛け合いで、次第にリラックスした表情となりました。「自彊術」は、日本で生まれた健康体操で、31の動作があり、今回はその一部分をご指導いただきました。1時間30分という時間でしたが「あれ、もう終わり？」というぐらい楽しい時間でした。この日参加された皆さんから感想を伺いました。





## 講習会 感想文

楽しい講習会でした。日頃運動不足になりがちで、体をほぐすことがなかなかできずにいる中、とても良い学びをさせていただきました。 (高見澤)



とても良かったです。もっと教えて  
いただきたいと思いました。

初めての経験でしたが気軽に今後も家で  
やりたいと思います。年とともに体を動  
かすことの大切さが身に沁みました。

体の良い時に習いたかった。体のた  
めに体を使い体操することで病気が  
治るならすばらしいですね。  
私は足もみが一番良かった。ツボも  
顔こすりもしたかった。

(保育10期 高橋ちよ子)



自分の体のために、自分の中の力を  
高めるためにいつでもどこでも出来  
る、本当に良い事(体操)を知り良  
かったです。一度全体操を見てみた  
いです。



自彊術、聞いた事のない言葉でしたが楽  
しみにしていました。皆と一緒にやって  
みて楽しく出来て体も軽くなる感じでし  
た。続けられたらと思いました。



血行が良くなった気がします。スッキリしました。良い姿勢ふだんから気を付けたいと思います。少しの意識大切ですね。  
足のツボ、頭のツボ気持ちよかったです。  
(保育科10期 岡澤恒子)



自彊術たいへん為になりました。帰って家族にも教えてあげたいと思います。



激しい運動でなくて良かったです。場所や器具がなくても出来るので続けたいです。

(保育科36期 小山 由果)

とても良かったです。つらくない運動なので続けたいと思います。

(保育科11期 宮本 澄江)



初めての自彊術、身体がほぐれてとても良い体操でした。ありがとうございました。

簡単な動作で体が軽くなった気がします。日々の生活の中にも取り入れていきたいと思いました。

(保育科45期 横尾 安希乃)

呼吸は大事なんですね。先生の指導どおりに呼吸をしていると、エアコンで冷えた足先も温まってきた感じがしました。もっと時間をかけてじっくり取り組みたい体操でした。



## 事務室訪問 ～山崎 哲治先生にお話を伺いました～

専門学校の事務室長としてのお仕事はもちろん、飛翔会の会計も担って頂いている山崎哲治先生に、いつもはなかなか聞けないご自身のことや思いなどを伺いました。山崎先生には、会計担当の役員と共に飛翔会費の管理をして頂いています。飛翔会の運営や活動に関する費用、講演会などイベントの費用など常に山崎先生と連絡を取り合い、決算、予算案までたくさんの仕事を通して支えて頂いています。



- **好きな季節とその理由は…**冬の晴れた日の朝（寒いのは嫌ですが）北アルプスの雪の白と空の青とのコントラストが好きですね。
- **好きな食べ物は…**好き嫌いは無いので、何でも。
- **お酒は飲めますか、また、好きなお酒の種類はありますか…**以前、居酒屋では梅酒のソーダ割りを飲んでいました（最近はありませんが）。
- **好きな色は…**水色
- **好きなお菓子は…**バームクーヘン
- **休日はどのように過ごされていますか…**健康のため、街の中や時には近くの川の土手道を散歩したりしています。
- **好きな芸能人はいますか…**好きなというか、最近気になっているのは「大泉 洋」
- **今の仕事に就くきっかけは…**以前、文化長野学園に勤めていた方の紹介

- **学生時代の思い出に残る人やエピソードがありましたら…**貧乏学生だったもので、勉強もせずにアルバイトをよくやっていました。

一番印象に残っている人は、東京に出て行って初めて住んだアパートの隣の部屋の人で、小村さん（という名前だったと思いますが）の奥さん。ご自身も確か北海道出身ということで、地方から出てきた田舎者に本当に親切にしてもらいました。引っ越ししたばかりで、布団がまだ用意できていなかった時、わざわざ寝具を貸してくれたり、自分の部屋に電話がまだなかったので、電話を貸してもらったり、いろいろと親切にしてもらいました。

- **自分が元気になれる好きな言葉は…**好きな言葉は「ありがとう」と「おもしろい」
- **健康のために日頃気をつけていることは…**できるだけ歩く、体を動かすこと
- **社会人になりたての頃の苦勞された話は…**当時はまだまだアナログの時代だったので（言い訳ですが）、しょっちゅう計算ミスや書き間違いをして上司や先輩から叱られていました。その他にも挙げたらきりがありません。思い出すと未だに胃が痛くなります。

♪ **最後に、好きな歌はありますか。また、その歌について思いなどありましたら、お聞かせください。**

好きな歌は、「めぐるいのち」です。

令和5年（2023年）12月の40周年記念式典で学生、教職員及び中島会長、皆さんと歌った「めぐるいのち」（鳥海理事長作詞監修、作曲）の歌詞の中に“いのちを受け継いで、今私が生きる”というフレーズがあります。

戦後80年にあたり、また昨今の世界情勢

の中で、改めて、このフレーズが大変意味深い歌詞だなと考えさせられました。

《いのちを受け継いで》っていう詞を聞いて、

- NHKの「ファミリーヒストリー」という番組…出演者の先祖が実際に生きてきた歴史
- 少し前のテレビドラマで「仁」というドラマ…脳外科医が幕末へタイムスリップ
- 昔の映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」…主人公の両親が会える時代へタイムスリップ

が思い浮かびました(すみません、古くて)。

過去に両親や祖父母が存在しなければ、そして出会わなければ、今の自分は存在しない。

では、具体的に何人の命を受け継いで皆さんが今、生きていますか？日頃の生活の中では、なかなか考えていないと思います。両親と祖父母で6人、曾祖父母まで入れると14人、10世代まで遡ると2,028人という人数になります。

仮に20歳で子供を産んでいるとすると、1世代20年×10人で200年、200年前は1825年江戸時代後期から末期へ、1853年が黒船来航、1868年が明治維新、そういう時代です。

さらにもう10世代、20世代まで遡るとなると、その人数は200万人を超えるそうです。200万人ですよ。もし、そのうちの一人でも命を失ってしまっていたら、今の自分はこの世に存在していなかったかもしれません。これって、凄いことだと思いませんか、400年前、1625年というと江戸時代初期3代将軍徳川家光の時代です。そんな時代の人たちから命を受け継いで、この世に生を受けたこと自体が奇跡です、ありがたいことです。

そういう、皆さんが同じ学校で、同じ教室で学んでいることって本当に奇跡の中の奇跡です。

当たり前にあることは、決して当たり前ではない。なので、皆さんのご自分の命はもちろんですが、家族や友達、周りの方々の命も大切にしたいと思います。

《今、私が生きる》って言葉から思い浮かんだのが、少し前に発行された本で、汐見夏衛著「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」です。

中学生の女の子が昭和20年へタイムスリップし、特攻隊員と恋に落ちるという話です。映画にもなりました(映画では女子高校生)。現代に戻った主人公が「私たちが生きている“今”は誰かが守ってくれた“未来”だった。彼らが命がけで守ってくれた未来を懸命に生きていく」と決心するという物語です。



私たちが当たり前のように今を生きていることに、少しでも感謝しながら、聴いたり、歌ったりしていただけると、より素晴らしい「めぐるいのち」になると思います。

※今回は、山崎先生からたくさんのお話を聞くことができました。中でも「いのち」に関わるお話は印象深く、私の心に残りました。また、山崎先生の優しいお人柄に触れることができた貴重な時間でした。お忙しいところ、ご協力ありがとうございました。

## 学校・学生の近況報告

主任教授・学科長 下平 正恵

飛翔会の皆様には、日頃よりたくさんのご支援ご協力をいただき本当にありがとうございます。また保育の現場でも温かいご指導をいただいておりますこと、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

学科長の下平と申します。このたびは、学校・学生のことをご報告させていただく機会をいただきありがとうございます。私自身もこの専門学校の卒業生ですので、この学校への愛は誰にも負けない思いで学生たちの育成に携わらせていただいております。

令和7年度は、2年生25名、1年生23名でスタートしました。学生たちの全体的な雰囲気はとても明るく元気な印象で、校内も笑顔と活気にあふれています。



コロナに翻弄された期間を経て、今ではさまざまな行事が活発にできるようになりました。今年度4月は、文化学園が運営する文化軽井沢山荘で1泊2日のフレッシュマンセミナーをおこないました。



2年生が中心となって企画しているこのフレッシュマンセミナーは、学年の枠を越えて

交流を深めたり、保育の道へ一歩踏み出した1年生に向けて、手遊びや弾き歌い、パネルシアターなどの保育内容についてひとつひとつ丁寧に教えたりと、本校がずっと大切にしてきた「先輩から後輩へ」の伝統が今でも学生たちに息づいていることを実感できるものとなりました。



男女共学になって2年目になりましたが、本校の男子学生は、2年生2名、1年生4名となり、来年度入学生はこれよりさらに増える見込みです。

明るく、優しく、爽やかで、何事も積極的に取り組むことのできる男子学生たちなので、現場での実習の際も大変褒められ、就職してほしいとお声がけいただくほどです。子



どもを愛おしいと思う気持ちに性別は関係なく、今は男性も気兼ねなくその思いを表現できるようになっていると感じます。高校へガイダンスに行かせていただくと、保育者を目指す男子生徒さんが多くなっていて嬉しく思います。これからも養成校は責任を持って男性保育者の育成に励んでいきたいと思いますし、同時にますます男性保育者が活躍できる保育現場であってほしいと願っています。

また近年は、高校卒業者を対象とするだけでなく、社会人経験のあるさまざまな年齢の方にも保育者を目指していただけるよう、積極的に受け入れをしています。社会経験や子育て経験を経た方に、改めて保育者という専門職に関心をもっていただくことも多くなりました。保育という仕事の高い専門性が認められ、一生涯続けられる仕事として選んでいただけることは、本当にありがたいことだと感じています。本校にも、2年生に3名、1年生にも2名の社会人経験者が在籍しています。



年齢層は様々ですが、同じ夢を目指す仲間として、互いに立場や境遇を理解しあいながら、勉学に励んでいる様子があります。

そして、2年生の就職活動も順調に進んでおります。昨年度からおこなってきた公務員試験対策の成果があり、複数人の公務員保育士の内定者が出ました。一方では、本校の学生の就職活動の特徴として、実習先で認めていただきそのまま就職に繋がることも多々あ

り、ありがたく思っています。代々受け継がれてきた本校の「気働き」の精神を褒めていただくことも多く、保育者マインドも評価されていることがわかります。2年生は2年間でおこなう5回の実習を全員が無事完了させましたので、あとは資格取得に向けて卒業までしっかりと集中して勉強に励んで欲しいと願っています。



また1年生は、夏休み中に5日間の保育体験実習をおこない、11月には初めての幼稚園教育実習に挑みます。現場の先生方には大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、学校としては今年度とくに学生募集に力を入れております。

本校は、幼稚園教諭2種免許状と保育士資格が卒業と同時に取得できる、県内にたった一つの専門学校です。文科省からも厚労省からも認可された専門学校は全国に25校しかなく、本校はそのうちの1校です。またこの専門学校を卒業すると得られる専門士の称号と、短期大学を卒業すると得られる短期大学士の称号は、全く同等であることも皆様に周知したいところです。保育の専門職を目指すのであれば、より実践的な学びを提供でき



る歴史あるこの文化学園大学保育専門学校を選んでいただけるよう、県内外にアピールしていきたいと思っています。

2年間という短い

期間で、保育者になるための知識と経験を積み重ねていくことを考えると、どのような仲間とどのような学びを深めるかということが、大変重要になると思っています。本校には自慢できる学びのひとつに「あそびの広場」があります。以前から皆様にもご紹介しておりますが、模擬保育室に未就園児親子を実際に招いて遊んでいただく取り組みです。地域の子育て支援に加え、学生たちが実際に子どもや保護者の方と関わりを深め、さらに有意義な学びになるようにという思いから活

動が広がっています。学生たちは、実際にお子さんが遊びに来る日をとても楽しみにしており、座学で得た知識と照らし合わせながら、あそびの広場で「子どもを知る」学びを深めています。また現場に出てから誰もが不安を抱く保護者対応についても、このあそびの広場で得た「お子さんのできたことを保護者の方と一緒に喜ぶこと」「保護者の方のお子さんへの思いに触れること」などの経験が実践力となって繋がっていくだろうと期待しています。



あそびの広場に参加された保護者からは毎回好評をいただき、私たちもやりがいを感じています。これからも子育てを応援したいという熱意をもって、保育者養成校としてできることを模索し進化させていきたいと思えます。

8月には、高校生の皆さんが参加する「オープンキャンパス」と、この「あそびの広場」を同時開催しました。学生たちが様々なあそびのコーナーを企画し、その中で高校生の皆さんにも実際の子どもたちと一緒に遊ぶ体験をしていただきました。日曜日のオープンキャンパスとなりましたが、24名もの学生たちが自発的にスタッフとしての手伝いを申し出てくれ、高校生の皆さんにも実際にいきいきと活動する学生たちの姿を見ていただくことができました。



さらには、すでに現場で活躍している現役保育者である卒業生が手伝いに来てくれたことで、大勢の参加者がある中、事故なく楽しく過ごすことができました。このような学生同士の繋がりや卒業生との繋がりが強固な学校は他にはなく、大変自慢できる場所でもあります。

この専門学校の取り組みや学生の様子を、私も学科長としてインスタグラムで発信しております。本校の公式インスタグラム、公式ホームページと共にぜひフォローしてご覧ください。これからも、たくさんの皆様に本校で学んでいただけるよう、学びの内容と質、学生たちのことを知っていただくための広報活動に力を入れてまいります。



身近に保育者志望の方がいらっしゃいましたら、年齢に関係なくぜひ本校を薦めていただきたくお願い申し上げます。

まとめになります  
が、飛翔会員の皆様  
のこれからのご健康

とご多幸をお祈りすると共に、今後とも母校へのご理解とご協力、お力添えいただきますことを改めてお願い申し上げ、私からの近況報告とさせていただきます。

(写真は学科長インスタグラムより)

## ホームページにて学校の案内・様子などご覧いただけます

### 文化学園大学保育専門学校

<https://bga.gakuen-nagano.ac.jp>

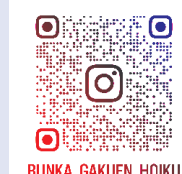
- ★ 学校紹介
- ★ 教職員一覧・担当科目
- ★ 研究紀要
- ★ オープンキャンパス・入試情報
- ★ NEWS・ブログ
- ★ 同窓会のページ  
など



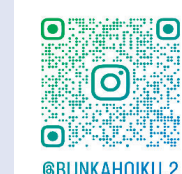
学校ホームページ



公式Instagram



学科長Instagram



## 令和7年度 飛翔会総会開催日程

日 時	令和7年12月13日(土)	午後13時～15時
会 場	文化学園大学保育専門学校	すみれ会館
議 事	① 第1号議案      令和7年度 事業報告 ② 第2号議案      令和7年度 決算報告 監査報告 ③ 第3号議案      令和8年度 事業計画 ④ 第4号議案      令和8年度 予算案	

## 事務局からのお願い

お名前、住所等連絡先の変更がございましたら是非下記事務局までご連絡をお願いいたします。(ホームページからもできます)

文化学園大学保育専門学校飛翔会事務局

E-mail : [hishokai@gakuen-nagano.ac.jp](mailto:hishokai@gakuen-nagano.ac.jp)

TEL026-227-2090 FAX026-224-2200

